

# 活動報告書

報告者氏名: 大杉仁彦

所属: 京都市立桃陽総合支援学校

記録日: 平成 27 年 2 月 1 日

## 【対象児の情報】

- ・ 学年 小学部 5 年生
- ・ 障害名 大腿骨骨折
- ・ 障害と困難の内容

- ・ 入院当初 1 カ月間は、けん引治療により、ベッドに寝たきりの状態。
- ・ 入院生活によるストレスと、学習の遅れや治療への不安、病室での孤独感。

ベッド上で iPad を使って学習をしている様子



## 活動目的】

### ・当初のねらい

- ・ 友だちとのかかわりの中で気持ちの安定を図る。
- ・ 前籍校の学習進度に遅れず、退院後、安心して前籍校にもどることができる。

・ 実施期間 平成 26 年 5 月 28 日～7 月 25 日

・ 実施者 糸川一恵

・ 実施者と対象児の関係 訪問教育 担任

学年	科目	単元	学習内容
5	国語	読書	読書感想文の書き方
5	算数	割合	割合の計算
5	英語	英会話	英会話の練習
5	音楽	音楽	音楽の鑑賞
5	体育	体育	体育の鑑賞
5	道徳	道徳	道徳の鑑賞
5	総合	総合	総合の鑑賞

### ～訪問教育とは～

- 京都市内の東部・南部の病院に入院している小・中学生を対象とし、病院に訪問し、ベッドサイドや病院内の部屋で授業を行う。
- 週3回、1回2時間の学習。
- 訪問教育期間中は、本校に学籍を移す。退院するときに、前籍校に学籍をもどす。

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・対象児の事前の状況

5月13日に入院。その後治療のため、約2週間の学習空白があり、5月28日より訪問教育を開始する。前籍校担任と保護者からの聞き取りによると、「訪問教育開始前の2週間は、牽引による足の痛みとベッドに寝たきりで動けないストレスから、学習意欲はかなり低下している。」との話だった。

本人・保護者の訪問教育への希望は、前籍校の学習進度に遅れないことと、以前から苦手な漢字・読書も個別学習的に取り組んでほしいことの2点。iPadの操作は経験なし。

### ・活動の具体的内容

#### ～iPad2 台で、ビデオ通話アプリ『タンゴ』を使って、病院と学校をつなぐ～



注1

今回、児童生徒と指導者との1対1での授業である。そこで通信機能を活用することで、他の児童生徒と関わりながら学習する環境をつくることを目標にしている。

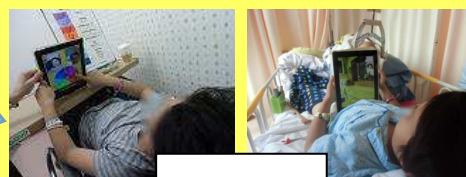
- ① 前籍校の学活とつなぐ。久しぶりに友だちと顔を合わせ、友だちからの応援メッセージを聞き、「ルーレットゲーム」をしてやり取りを楽しんだ。
- ② 交流及び共同学習として、前籍校の国語の授業を受けた。インタビュー活動の単元で、友達にインタビューをしたり、インタビューをされたことに答えたりして、学習を深めた。
- ③ 本校の全校集会とつなぐ。校長先生の話の聞いたり、クラス紹介コーナーで自己紹介をしたり、退院のあいさつをしたりした。

#### ～iPad2 台で病院と学校をつなぐ～



前籍校とつないで

①②



病室の様子

③



本校とつないで

④授業では、ノート代わりにホワイトボードをカメラ機能で記録し、振り返りをした。また、漢字学習や計算練習ではアプリを、理科や社会ではNHK for schoolを視聴するために活用した。

注1 Tango Text, Voice&Video (TangoMe. Inc.)

### ○対象児の事後の変化

子ども同士がかかわる回数を重ねるごとに、笑顔が増え、口数も増えていった。

桃陽の全校集会とつないだことで、ビデオ通話のイメージが持て、前籍校との交流に期待感が強くなった。前籍校との交流では、友だちからの応援メッセージを聞くことで、「自分もクラスの一員だ。」「みんな待ってかれている。」と感ずることができ、病院での孤立感・孤独感を和らげることができた。さらに、前籍校の学習進度を知ることで、「帰校後もみんなと同じ進度で学習できる。」という安心感を持ち、不安な部分については、退院までに自分で計画を立てて意欲的に学習し、前籍校にもどることができた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

iPad2台を使うことで、入院中の孤立した子どもと集団をつなぐことができ、つながることで、視野が広がり、意欲がわき、不安が解消されたり、ストレスが緩和されたりした。

#### ・エビデンス(具体的数値など)

①前籍学級全員とA児の感想文の交換。

→A児の口数が増え、徐々に笑顔が増えていった。

②A児の感想。

「今のクラスの様子が変わって嬉しかったです。みんなと国語の授業をして楽しかったです。みんなと百人一首をするときにちょっと不安になりそうです。」

→クラスの様子を知ることで、退院までの学習目標を自分で立てることができた。

③保護者の感想。

「ギプスで全身が固定され、字が書きにくいので、iPadでの授業で助かっています。～授業を毎回楽しみにしています。～小学校との交流は特に嬉しかったようで、どんなことを話そうかと前の週から楽しみにしていました。」「また機会があれば、お願いします。」

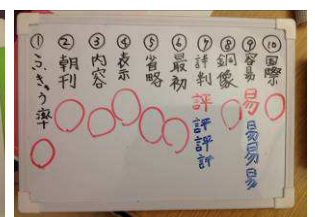
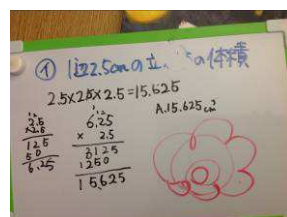
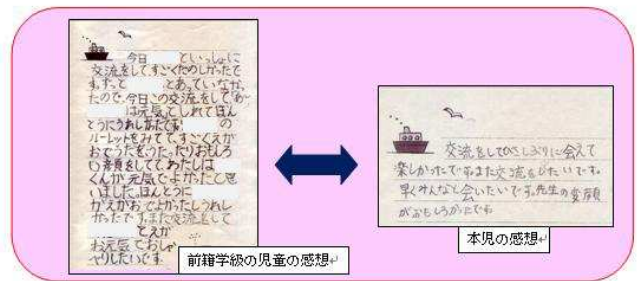
→入院当初はストレスをため込み、表情や口数が少なかったA児だが、徐々に和らぎ笑顔が増えていった。

#### ・その他エピソード(画像などを含めて)

～学習面での活用～

上記の交流の取組以外、学習アプリの活用のほか、記録のためのカメラ機能の活用も試みた。A児は、約1カ月間ベットに仰向けに寝たままでの学習姿勢だったため、ノートや鉛筆を使うことが難しく、代わりにノートサイズのホワイトボードを活用していた。筆圧が弱くても書きやすい利点がある反面、書きためていけないことが難点だった。毎回の授業初めの漢字小テストでは、点数アップを励みに頑張っていたので、iPadのカメラ機能で記録を残すことにした。最初は、記録を撮りためるだけを目的に始めたが、写した写真をピンチアウトで拡大して、漢字の小さなミスに気づくことができたり、学習の振り返りに活用することができたりして、A児の学習意欲の向上に役立った。

ノートアプリに直接書き込んでいく方法もあったが、ホワイトボードは画面が大きい割に軽いため、ホワイトボードを自分の左手で支えて胸の上に立てて、書くことができた。



# 活動報告書

報告者氏名: 大杉仁彦

所属: 京都市立桃陽総合支援学校

記録日: 平成 27 年 2 月 1 日

## 【対象生徒の情報】

- ・ 学年 中学部 2 年生
- ・ 障害名 大腿骨頭すべり症
- ・ 障害と困難の内容
  - ・ 約 3~6 ヶ月の入院。2 回の手術, 車いすでの移動など安静を必要とされる。
  - ・ 入院生活によるストレス, 孤独感。
  - ・ 元々, 学習に苦手意識があり, 学習意欲が低い。

訪問教育は, 週 3 回, 1 回 2 時間, ベッドサイドまたは病院内の個室で授業を行う。

## 【活動目的】

- ・ 当初のねらい
  - ・ 入院生活や学習の遅れによる不安を和らげる。
  - ・ 学習意欲の向上を図る。
- ・ 実施期間 平成 26 年 10 月 17 日~平成 27 年 3 月
- ・ 実施者 桜井沙織
- ・ 実施者と対象生徒の関係 訪問教育 担任

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### ・対象生徒の事前の状況

10 月 6 日に入院。10 月 17 日より訪問教育を開始する。前籍校担任と保護者からの聞き取りによると、「小学校 6 年生のときにも 4 ヶ月入院していたが, 訪問教育を受けておらず, 学習空白がある。元々学習に対する苦手意識があり, 学習意欲も低い。」との話だった。前籍校のクラスでの学習は落ち着かない状況があった。授業中, 集中できず, 説明を聞いていても理解できない部分が多くなり, 学習意欲が低下していった。そのため, 通級指導教室に通って学習を進めていた。

本人・保護者の訪問教育への希望は, 5 教科を中心に前籍校の進度に沿いながら, 基礎的な問題を解けるようになることである。前籍校のプリントは個別学習の特性を活かし, 本人の学力に応じて使用する。iPad の操作は習得している。

### ・活動の具体的内容

~iPad2 台で, ビデオ通話アプリ『タンゴ』を使って, 病院と学校をつなぐ~



(注 1)

- ① 前籍校の学活とつなぐ。「ビブリアバトル」(おすすめの本を班で紹介する→班の代表者がクラスで発表する)を通して, クラスメートとのやり取りをした。
- ② 桃陽の全校集会, 学習発表会とつなぐ。全校集会では校長先生の話の聞いたり, リレートークで「2015 年の抱負」などについて話したりした。学習発表会では舞台発表と児童生徒会企画のクイズ大会に参加した。

~iPad2 台で病院と学校をつなぐ~



前籍校とつないで

①



病室の様子

②



本校とつないで



### ～iPadの学習アプリの活用～

授業の導入などで学習アプリを活用した。授業で使用したあと、自主学習として、生徒自ら別端末にアプリをダウンロードし、病室で使用した。日本史の学習アプリは本人が比較的興味を持っている分野だったこと、全て選択問題で、答えを選ぶとすぐにそれが正解かどうか分かることが、本生徒にとって自主学習のきっかけとして取り組みやすかった。また、英文法の学習アプリは定期テスト対策として、並べかえ問題は解けるようにさせたいという、こちらの意図があった。このアプリは、並べかえている際、その順番が間違っていると、単語が揺れて、それを教えてくれるという利点があった。



(注2)



(注3)

### ～訪問教育がない日のiPadの貸し出しによる学習支援～

訪問教育がない日にiPadを貸し出し、『タンゴ』でつないで担任とやり取りをしながら学習支援や宿題の確認を行った。学習支援では、定期テスト等に合わせて問題を紙に書いて5問出題し、答える形式を取った。(写真①) また、宿題として出した学習アプリの範囲がわからなくなったときに、本人がそのアプリのスクリーンショットを撮り、『タンゴ』のチャット機能で送信して確認を行った。(写真②)



(写真①)



(写真②)

※1 Tango Text, Voice&Video (TangoMe, Inc.)

※2 無料1200問!日本史1問1答 (HANAUTA, Inc.)

※3 早射ち英文法 (Gakko Net Inc.)

### ○対象生徒の事後の変化

同世代の子どもとの交流を重ねることで、刺激を受け、入院生活による不安や孤独感が和らいだ。また、前籍校との共同学習では、手術の2日後で落ち込んでいた中でのやり取りだったが、久しぶりに見るクラスや友だちの様子に自然に笑顔が出て励まされた。

学習アプリを授業の中で短時間活用することで、苦手な学習に意欲的に取り組めた。これまで、自主学習をしたことがなかったが、学習アプリの活用により、病室で自主的に学習することができた。

また、訪問教育がない日の学習支援では、『タンゴ』を利用して、こちらで精選した2科目の問題に取り組むことで、「訪問教育以外の日も勉強しよう」という学習に対する意識を高めることができた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

①本生徒は携帯電話を日常的に使用し、特定の友だちとの会話はできているが、前籍校の授業を受けたり、クラスの様子を見たりすることはできていない。iPadを使って、孤立した子どもと集団をつなぐことで、いつも1人だけで学習している状態から学習環境が広がり、意欲が湧き、入院生活によるストレスや不安が解消された。

②本生徒は、前籍校では定期テストに向けてあまり学習したことがなかった。英語や社会の自学自習に学習アプリを活用したことにより、それがきっかけで、「テストに向けて少しでも勉強しよう」という気持ちが生まれ、普段より自主的にテスト対策ができた。

③訪問教育がない日の、担任と本生徒との『タンゴ』での通信では、ビデオ通話以外にチャット機能も使用した。会話だけではわかりにくい宿題の確認に、カメラやスクリーンショットで撮った写真をチャット機能で送信することで、より効果的なやり取りができた。また宿題が疎かになる日があったが、『タンゴ』で通信することで、「しっかり終わらせなければならない」という気持ちが生まれ、宿題を最後までするようになった。

#### ・エビデンス(具体的数値など)

①ビデオ通話アプリでの交流及び共同学習を提案した当初は抵抗を示していた。しかし、『タンゴ』で学校行事やクラスの様子を見たり、学活で友だちとやり取りをしたりしたことで、「早く退院したいから、治療をがんばろう」と前籍校復帰への意欲と、治療への意欲を高めることができた。



②前籍校の定期テストを受験した際、「久しぶりに解答用紙をたくさん埋められた」と、テストに向けて学習をした効果を実感していた。

#### ・その他エピソード(画像などを含めて)

訪問教育がない日の、担任と本生徒との『タンゴ』での通信で「10時にビデオ通話をする」と前日に伝えていたが、10時に起床できておらず通話に出られない日があった。本生徒と話す中で、訪問教育がある日は9時に起きて学習をしているが、ない日は11時過ぎに起きていることがわかり、退院を見据えて、生活リズムを整える必要があると感じた。当初は訪問教育がない日の学習支援を目的としていたが、朝、通話をするすることで、生活支援につながることもわかった。継続して朝に通話をするすることで、生活リズムの改善に効果があった。